

< 多様な担い手（棚田オーナー等）の確保に取り組む事例 >

スイカオーナー制度で愛する島を活性化！

1．集落協定の概要

市町村・協定名	山口県萩市・相島			
協 定 面 積 29.8ha	田（％）	畑（100％）	草地（％）	採草放牧地（％）
		スイカ等		
交 付 金 額 160 万円	個人配分			0%
	共同取組活動 （100％）	役員報酬		12.5%
		農地維持管理費		21.8%
		水路・農道維持管理費		31.3%
	体制整備に向けた活動費等		34.4%	
協 定 参 加 者	農業者 60 人、非農業者 0 人			

2．取組に至る経緯

相島は、萩市の北西約 14 km の日本海に位置する面積約 2.43 k m² の離島で、島には 71 世帯、186 人が暮らしており、その内 60 人が集落協定に参加している。島の主産業は農業で、スイカ、葉たばこ、加工用さつまいも、ブロッコリー等が生産され、特に相島スイカは、県下最大の産地として有名で、都市部でも高い評価を得ている。

本制度には、第 1 期対策から取り組み、第 2 期対策では、認定農業者 2 名の育成及び摘果スイカを活用した漬物の加工販売に取り組んだ。また、相島スイカの P R 及び島の活性化を目的に、平成 17 年度からスイカオーナー制度を実施し、都市部との交流人口の拡大を図った。第 3 期対策は、高齢化対策と後継者育成に重点を置き、共同で支え合い安定的・持続的に農業生産活動を行う仕組みづくりの構築を目的とした集落協定を締結した。

3．取組の内容

第 3 期対策の開始に当たり、集落協定の役員をスムーズに世代交代し、若年層に離島地域農業の持続意識を高揚させ集落協定の管理体制の充実を図った。今後は、スイカオーナー制度の充実をはじめ、加工用さつまいもの作付増大による耕作放棄地の発生防止、摘果スイカの漬物の P R と販売増加、相島いもづくりオーナー制度の立ち上げ等、島の活性化事業に積極的に取り組んでいく。



【相島いも掘りフェスタ】



【スイカオーナー制度】

[集落の将来像]

本集落が島嶼部であり、担い手となる世代の島外への流出及び農業従事者の高齢化が進んでいるため、引き続き、新規就農者の受け入れや認定農業者の育成により島の後継者を確保する。また、スイカオーナー制度やいも掘りフェスタを通じて都市部との交流人口を拡大し、島のPRと活性化を図る。さらに、加工用さつまいもの作付増大による耕作放棄地の発生防止、相島いもづくりオーナー制度の立ち上げ、農家所得の向上に向けた摘果スイカの漬物の販売拡大等、島の特産品の開発と島の恵まれた自然を生かしたグリーンツーリズムを推進し、若者が安心して暮らせる”夢”のある相島を目指す。



[将来像を実現するための活動目標]

島の活性化と相島農産物のPR

[活動内容]

農業生産活動等

農地の耕作・管理(畑 30ha)

個別対応

水路・農道の管理

水路清掃(年1回 5月)

農道草刈(年2回5・9月)

共同取組活動

農地法面の定期的な点検

(年2回随時)

共同取組活動

多面的機能増進活動

スイカオーナー制度の実施

・植え付け作業 4月

・収穫作業・収穫祭 7月

共同取組活動

グリーンツーリズムの推進

・相島探訪ツアー(相島いも掘りフェスタ等)の実施

10月

・相島いもづくりオーナー制度の立ち上げ【新規】

共同取組活動

農業生産活動の体制整備

共同で支え合う集团的かつ持続可能な体制整備

共同取組活動



集落外との連携

島の活性化と相島産農産物のPRを目的に、地元農協、行政機関と連携し、スイカの植え付けと収穫体験を通じて都市住民と交流を図る『スイカオーナー制度』に取り組んでいる。また、さつまいも収穫体験を行う体験農園を開設することにより、都市住民との交流を通じた耕作放棄地の発生の防止を図っている。

4. 今後の課題等

組織の充実と後継者の育成を図りながら、スイカオーナー制度やいも掘りフェスタ等の共同取組活動に、これまで以上に多くの若者が参画できる環境づくりを進める。また、島内には食堂が無いので、将来的に、若者による農家レストラン等の開設に向け検討する。

[第2期対策の主な成果]

これまで廃棄していた摘果スイカを活用した漬物の商品化。(商品名;アイちゃん漬物)

スイカオーナー制度(H22;350人参加)、いも掘りフェスタ(H22;150人参加)の実施による交流人口の増加。

加工用さつまいも栽培による耕作放棄地の発生防止。(H22;1.5ha)